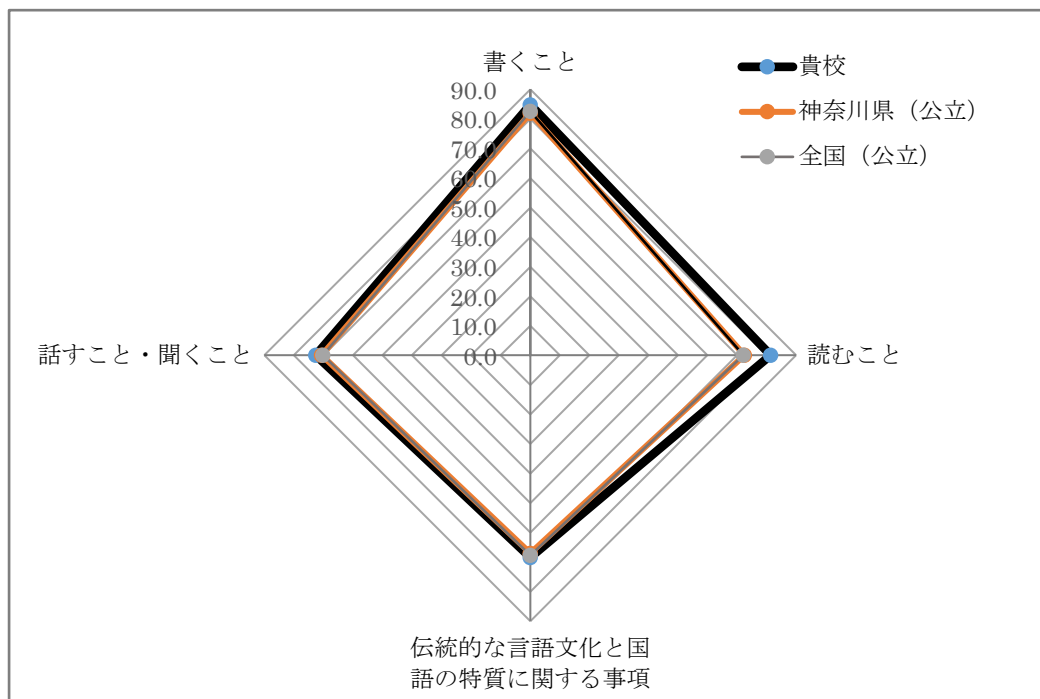


令和元年度 全国学力学習状況調査分析結果

(中学3年生対象 H31. 4月実施)

1 学力の概要 (国語・数学・英語の調査結果)

【国語】



全体的には、全ての観点で全国の平均をやや上回っている。

特に全国平均を大きく上回った(10ポイント程度)項目は、次のとおりである。

- ・「文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ」
- ・「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える」
- ・「話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ」

このことから、文章を読みとったり、話し合いなどで自分の考えを持つことができる力が育っていると考えられる。

いっぽう、全国平均を若干だが(1ポイント程度)下回った項目は次の通りである。

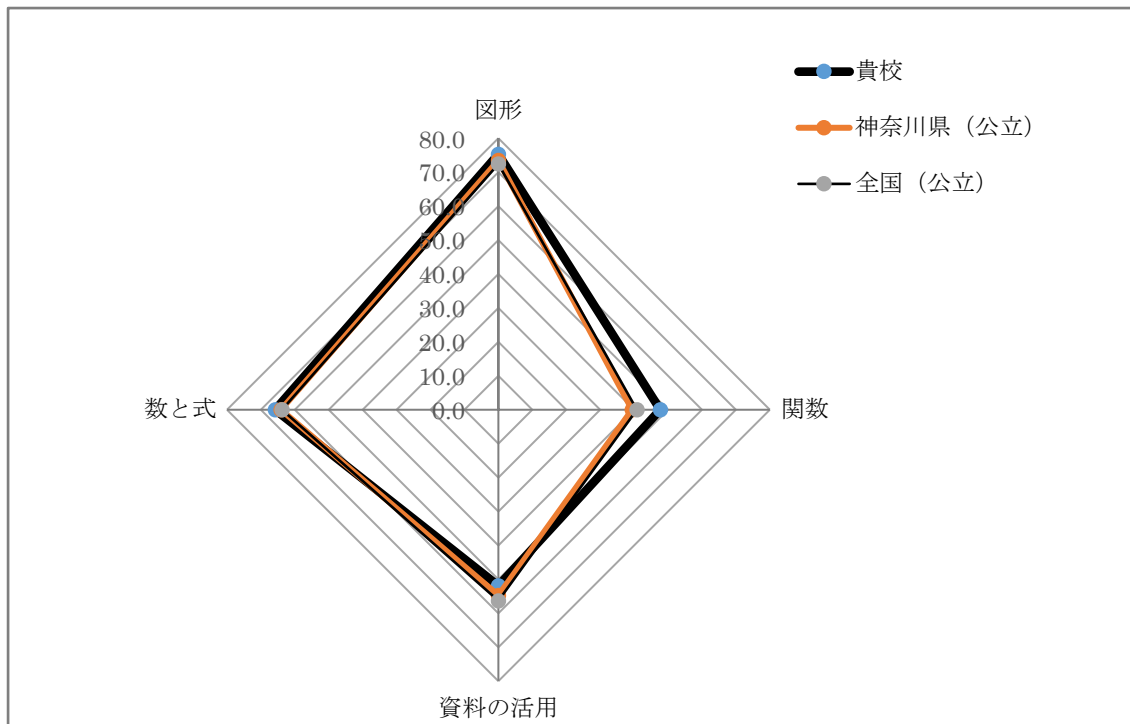
- ・「語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解する」
- ・「話合いの話題や方向を捉える」

このことから表現方法の工夫や、話し合いの概要をとらえる力が不足していると考えられる。

【今後の手立て】

文章の構成や展開、表現の工夫を捉えることや、情報を整理しながら、それらについて話し合い、自分の考えをもつことなど普段の学習で重点的に行っていることに成果が見られるため、今後も継続したい。慣用句やことわざなどの表現を自分の表現に役立てられるよう、語彙力や表現力を高めることにも力を入れていきたい。

【数学】



全体的には、3つの観点で全国の平均を上回っており、1つの観点が全国平均を下回っている。全国平均を5ポイント以上、上回った項目は、次のとおりである。

- ・「グラフ上の点Pの y 座標と点Qの y 座標の差を、事象に即して解釈することができる」
- ・「結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる」
- ・「事柄が成り立つ理由を説明することができる」
- ・「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」
- ・「反比例の表から、 x と y の関係を式で表すことができる」

このことから関数や証明の力が育っていると考えられる。

いっぽう、全国平均を5ポイント以上、下回った項目は次のとおりである。

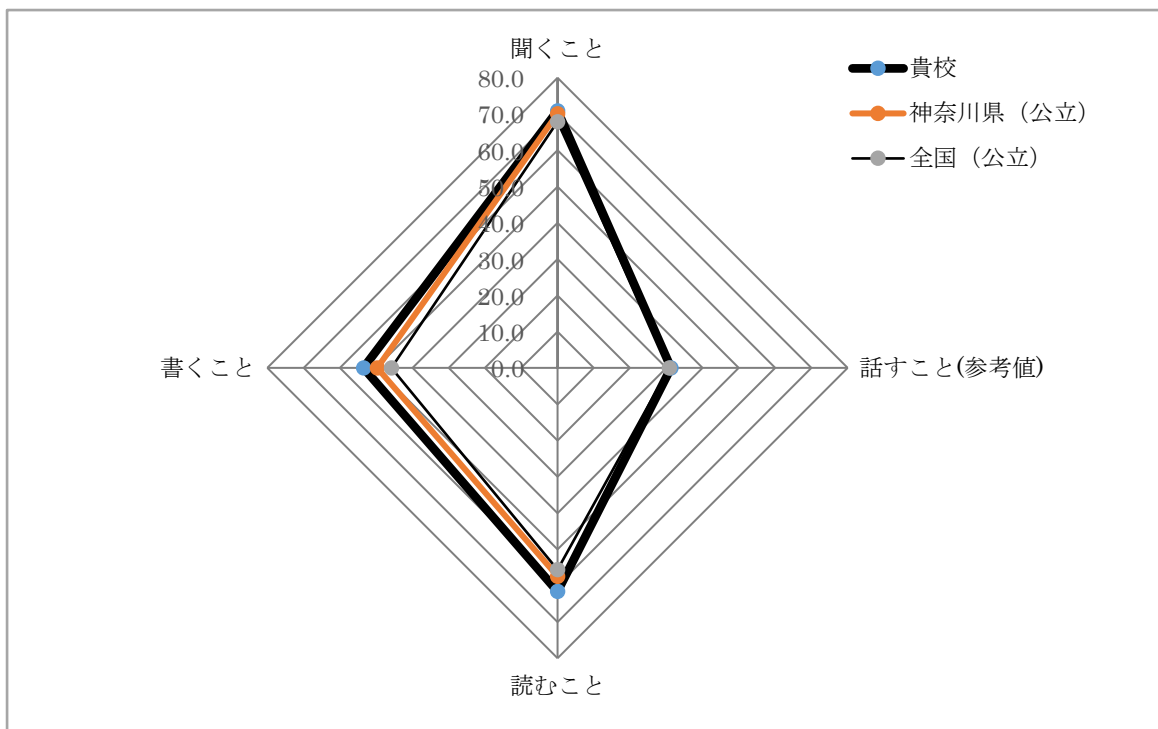
- ・「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」
- ・「問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断することができる」
- ・「総合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈することができる」

このことから資料の整理における代表値の知識、また資料を分析する力が不足していると考えられる。

【今後の手立て】

「資料の活用」の観点について、3年間を通じて、基礎的な事項を復習していけるようにしたい。また「関数」等得意な分野については、さらに力を伸ばせるよう授業改善に努めたい。

【英語】



全体的には、全ての観点で全国の平均を上回っている。

全国平均を10ポイント以上、上回った項目は次のとおりである。

- ・「一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる」
- ・「与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる」
- ・「与えられた情報に基づいて、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書くことができる」
- ・「日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる」
- ・「まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解することができる」

このことから文法事項全般の知識や聞き取る力が育っていると考えられる。

全国平均を5ポイント以上下回った項目はなかったが、若干下回ったものは次のとおりである。

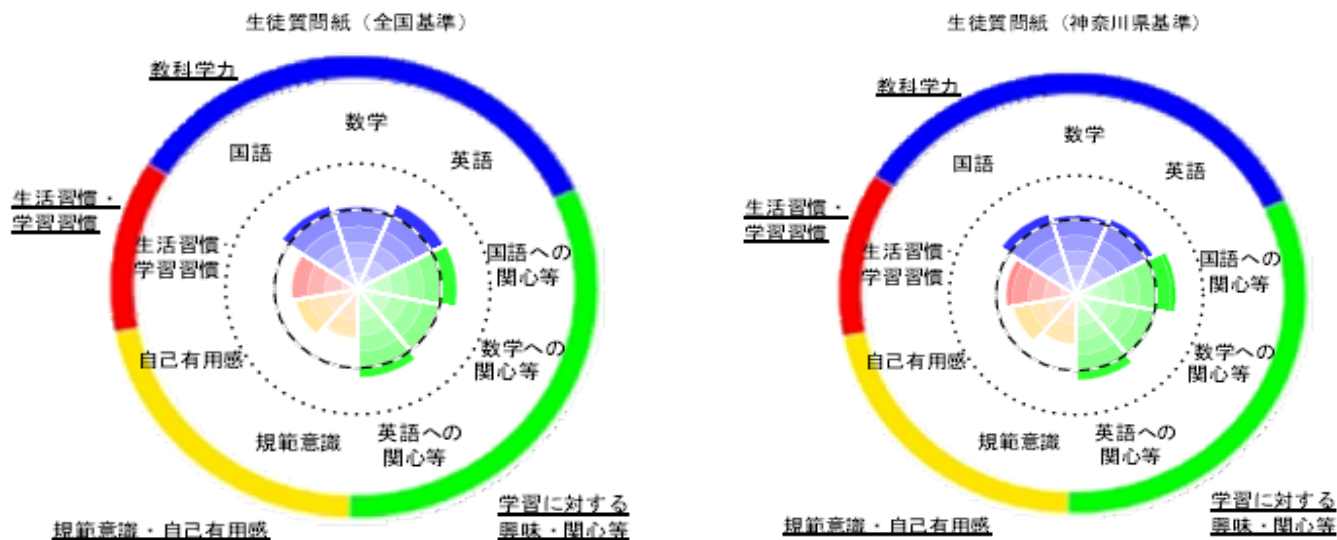
- ・「まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することができる」
- ・「与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる」

このことから、文法事項の一部の理解、また長文の読解力が不足していると考えられる。

【今後の手立て】

長文読解を苦手とする生徒が多いため、まとまった文章の読解問題を授業で取り入れていきたい。また文法事項は概ね良好であるが、引き続き、基礎的な事項を確認しながら授業を進めていきたい。

2 本校の生徒の学習・生活の状況（生徒質問紙による調査結果）



学力においては、国語、数学、英語のほぼ全ての観点で全国平均を上回っており、教科の学習において、「授業で学習したことは、将来社会に出たときに役立つと考える」また、「学習したことを普段の生活で活用できないか考えている」生徒も平均を上回っている。日頃より関心をもって学習に臨み、確実に積み重ねていることが、成果として表れたと考えられる。「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日あたりどのくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」の質問でも、3時間以上と答えた生徒が全国平均よりも10パーセントほど多い。また、読書を2時間以上すると答えた生徒も平均を上回った。

生活面では、「人が困っているときは、進んで助けていますか」の項目で、全国平均を上回っているものの、次の項目では平均を下回り、自己肯定感の低さや規範意識に欠ける点が見られた。

- ・「自分にはよいところがあると思いますか」
- ・「学校の規則を守っていますか」
- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」

また、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の項目は平均を大きく上回った。「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」の項目も平均を上回っていることから、地域に愛着や誇りを感じ、貢献しようとする姿勢がうかがえる。

「学校の部活動に参加していますか」の項目では、運動部に参加している生徒は全国平均より5%ほど多く、文化部に参加している生徒は全国平均を10%ほど下回っている。これは部活動の構成によると考えられる。また「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか」や「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか」の項目では全国平均を上回っており、英語の学習への意欲や意義を感じている部分と一致する結果となっている。

【今後の手立て】

自己肯定感を高めることが第一の課題である。日々の授業や様々な活動の充実を図り、その中から自分の良さを見出し、自信が持てるようにするとともに、教育活動全体を通して多様性を尊重すること、ルールやマナーの大切さを考えさせていきたい。地域の活動体験を大切にできる生徒が多いことから、地域社会との関わりを深め、自分自身の良さを理解し、他者を大切にし、協働できる生徒の育成に努めたいと考える。